

川崎病冠状動脈瘤が消退 (regression) した患児 遠隔期の臨床検査所見

加藤裕久、井上 治、杉村 徹

要約：当科で経験した川崎病既往児のうち、冠状動脈造影にて動脈瘤の regression が確認され、発病から10年以上経過している87例について、最近の臨床検査所見について検討した。外来レベルでの検査のうち聴診、安静時心電図、胸部レントゲン、運動負荷心電図で異常を認めた例はいなかった。断層心エコー図では44.2%に冠状動脈壁のエコー輝度上昇や壁不整が、また血清脂質の検討では21.4%に総コレステロール高値または動脈硬化指数の高値が認められた。

見出し語：川崎病、冠状動脈瘤、regression、遠隔期予後

【研究目的】

川崎病既往児を長期にわたり管理していく場合、その冠状動脈病変の程度により管理が異なってくる。とくに急性期から冠状動脈病変を認めなかった例や遠隔期に冠状動脈病変が regression した例の管理は各施設まちまちであるのが現状である。昨年度の本研究班で病初期から冠状動脈病変を認めなかった川崎病既往児の予後について検討したが、本年度は川崎病冠状動脈病変 regression 児遠隔期の臨床検査所見について検討した。

【対象と方法】

当科で経験した川崎病既往児のうち急性期直後の冠状動脈造影で冠状動脈瘤が存在し、その後の

造影で regression が確認され、さらに川崎病発病から10年以上経過している87例を対象とした。これらの例で症状、聴診、安静時心電図、胸部レントゲン写真、断層心エコー図、および一部の例で血清脂質、トレッドミル運動負荷心電図での異常所見の有無を検討した。

【結果】

対象87例は男児55例、女児32例であった。これらのうち最近1年間に当科外来を受診したのは52例(60.0%)であり、男児32例、女児20例であった。

この52例で胸痛や易疲労感など明らかな症状を訴える例はいなかった。また聴診で僧帽弁閉鎖不

久留米大学医学部小児科; Department of Pediatrics, Kurume University School of Medicine.

全雑音など異常所見を新たに認めた例はなかった。胸部レントゲン写真で心拡大、石灰化の出現を呈した例はみとめなかった。断層心エコー図では23例(44.2%)に冠状動脈壁のエコー輝度上昇や動脈壁の不整を認めたが、左心室壁運動異常は認めなかった。トレッドミルによる運動負荷心電図は21例に施行したが、血圧や心電図変化を認めた例はいなかった。41例で血清脂質を検討し9例(21.4%)に高値を認めた。(総コレステロール値; 200mg/dl以上4例、動脈硬化指数; 3.0以上5例)

断層心エコー図で冠状動脈壁のエコー輝度上昇や壁不整を認めた例のうち4例に冠状動脈造影を行ったが異常を造影上認めた例はいなかった。

【考察】

川崎病冠状動脈瘤は遠隔期に冠状動脈造影上正常化(regression)する例が存在するが、これらを病理学的に検討すると正常ではなく、著明な内膜の肥厚をはじめとした種々の異常が認められる。

この状態は広義の動脈硬化であり、これらの患児が加齢とともに、他の動脈硬化危険因子が加わる事により粥状動脈硬化症へと進展する可能性が存在する。

今回発病から10年以上経過した川崎病冠状動脈瘤が regression した患児の臨床検査所見を検討したが、川崎病由来の critical な所見を呈する例は存在しなかった。断層心エコー図で44.2%に異常所見が認められたが、いづれも軽度の変化であった。しかし川崎病の長期予後はまだ不明であり、これらの変化が将来何らかの病態を引き起こす可能性もある。また、動脈硬化危険因子のひとつである、血清脂質の検討では21.4%に総コレステロール高値または動脈硬化指数高値が認められた。

したがって、これらの患児の経過観察は中止することなく継続すると共に既存の動脈硬化危険因子を回避するような指導を幼少時から行うことが重要と考えられる。

外来検査所見異常例

症 状	0/52	
胸部レントゲン	0/52	
安静時心電図	0/52	
断層心エコー図	23/52 (44.2%)	エコー輝度上昇22例, 動脈壁不整4例
運動負荷心電図	0/21	
血清脂質	9/42 (21.4%)	T.cho高値4例, AI高値5例
冠状動脈造影	0/4	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: 当科で経験した川崎病既往児のうち・冠状動脈造影にて動脈瘤の regression が確認され、発病から 10 年以上経過している 87 例について、最近の臨床検査所見について検討した。外来レベルでの検査のうち聴診、安静時心電図、胸部レントゲン、運動負荷心電図で異常を認めた例はなかった。断層心エコー図では 44.2%に冠状動脈壁のエコー輝度上昇や壁不整が、また血清脂質の検討では 221.4%に総コレステロール高値または動脈硬化指数の高値が認められた。